

Myself = true Community

南九州大学SPARC未来共創教育プログラム

境界を飛び越えろ。



どうやって売る?

宮崎っていいところだよ

豊かな自然と美味しい食べ物

どうやったら売れる?

マーケティングを学ぼう

みんなに教えたい

まずは宮崎の探求から始めよう

私に何が出来るかな

わたしの、知りたい!できる!を、もっと

景観って大事だよ

あのまちが素敵なのは何故だろう

人が集まる場所って何か仕掛けがあるのかな

世界の人と交流しながら学ぼう

少子高齢化 人材不足

社会の「問題」? それは「課題」だよ

それをクリアするのって楽しそう!

DXって、便利なの?

●宮崎キャンパス
〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島5丁目1番地2
TEL:0985-83-2111/FAX:0985-83-3383

●都城キャンパス
〒885-0035 宮崎県都城市立野町3764番地1
TEL:0986-21-2111/FAX:0986-21-2113



Website

Instagram

LINE

YouTube



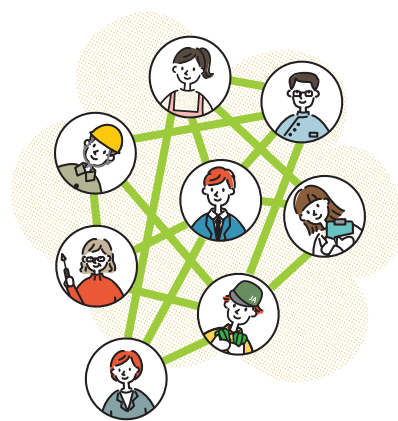
文部科学省 地域活性化人材育成事業

SPARC



4大学の学びを共有し、
地域社会と共に地域の未来を
切り拓くことができる
「未来共創人材」を育成します。

物事の変化が速く、先行きが不透明な現代では、戦略性や構想力、主体的・積極的に価値を生み出すチャレンジマインドが求められます。このような資質やスキルを身に付けるために大学だけではなく自治体、企業、金融機関等の地域社会が一体となって様々な資源を活用し、社会全体を学びのフィールドにして展開される教育プログラムがSPARC(地域活性化人材育成事業)です。各大学の専門領域を活かした大学間連携による学びを通じて、多様な人々と繋がり、「新たな価値」を創出するベースとなる「未来共創力」を養成し、「生産性の高い第1次産業」、「フードビジネス」、「DX・AI」、「グローバルビジネス」、「地域医療」、「地域教育」等、多様な分野において持続可能な地域づくりを支える「未来共創人材」の育成を目指しています。



What? 地域社会とどう関わるの? 私たちが学ぶことのメリットは?

地域社会	産業界	大学	金融機関	労働団体	宮崎県	メリット
<p>地域社会が求める人材像の設定</p> <p>宮崎県の産学金労官13機関からなる組織『宮崎県産業人財育成プラットフォーム』宮崎県では産学金労官が連携して、本県産業を担う中核的な産業人財を育成・確保するためのプラットフォームを構築しています。宮崎地域が求める人材像「未来共創人材」は、この中で設定されました。</p>						<ul style="list-style-type: none"> SPARC未来共創教育プログラム修了証の授与 オープンバッジの授与 地域企業における就職活動時や入社後の特典(インセンティブ)提供
<p>教育プログラムへの協力・点検など</p> <p>宮崎県産業人財育成プラットフォームのもと設置された委員会『SPARC学位プログラム等企画・運営委員会』地域産業界と大学が協力して教育プログラムに取り組みます。教育資源(ヒト・モノ・フィールド)、インターンシップなど、協働して、地域PBL・アントレプレナーシップ等の実践的な学びを支えます。</p>						<p>インセンティブの一例</p> <p>エントリーシート選抜優遇/一次試験・面接の免除/奨学金の返還支援など</p>

What? 未来共創人材ってどんなひと?

<p>俯瞰力・構想力</p> <p>総合知で社会を俯瞰し、目指す未来を描く</p>	<p>時代の変化に目を向け、柔軟に戦略立案・意思決定ができる人</p>	<p>事業拡大や、イノベーションに挑戦し、企業や地域等を支える人</p>
<p>科学的思考力</p> <p>事実やデータに基づき、論理的に思考する</p>		
<p>繋ぐ力・構想実現力</p> <p>他者との繋がり、協働して構想を実現する</p>	<p>自ら主体的・積極的に価値を創造するチャレンジマインドを持つ人</p>	<p>横断的で広い視野を持ち、多様な人と繋がり、巻き込むことができる人</p>

How? 未来共創人材をどのように育成するの?

<p>教養教育の再編</p> <p>教養教育を再編し、STEAM教育・分野横断の総合的な知識の基盤となる科目を新たに設置します。</p>	<p>連携開設科目の活用</p> <p>各大学の専門分野の特長や強みを活かした連携開設科目を開講し、大学の垣根を超えて混ざり合って学びます。</p>	<p>未来共創科目</p> <p>構想・デザイン系</p> <p>課題の発見・解決に必要な視点や思考法であるデザイン思考等を学び、プロジェクトをデザインするための力を育みます。</p> <p>協働・創造系</p> <p>地域をフィールドに広い範囲での協働・共創力を身に付け、プロジェクトをマネジメントするための力を育みます。</p>
<p>未来共創科目群の創設</p> <p>地域活性化のためのスキルや資質を身に付ける「未来共創科目」(宮崎大学開設)で、学びと実践を往還します。</p>	<p>地域社会との連携</p> <p>地域の自治体・企業・金融機関等と密接に連携し、より実践的な学びの場で地域のニーズにマッチした教育を展開します。</p>	

What?

How?

南九州大学では どの学科が対象で、何を学べるの？

南九州大学の教育理念・教育目標に基づく
持続可能な社会づくりの担い手を育む未来共創教育プログラム

新・教養教育

全学科

基礎教育

大学での学びを修得するために必要な基礎知識やスキルを身に付け、STEAM科目、文系・理系科目など、幅広い分野を一般化した観点から学ぶ。

※STEAM…科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、芸術・リベラルアーツ(Art)、数学(Mathematics)の5つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育理念

南九リベラルアーツ

南九州大学の教育・研究のテーマである「食・緑・人」の視点から、学部・学科の学問分野を横断して複合的に学び、持続可能な開発目標(SDGs)を達成するための知識や価値観を習得する。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

地域共生

地域への理解を深め、地域の課題を発見し、解決する実践能力を身に付ける。「未来共創科目」(宮崎大学開設)では、地域社会と連携して、企業課題や地域課題に取り組むPBL型授業を行う。

※PBL…Project Based Learning(課題解決型学習)。自ら問題を発見し、解決することを重視した能動的学習方法

新・専門教育

環境園芸学科 食品開発科学科

地域をフィールドにしたPBL科目の強化

アクティブラーニング等の実践的で主体的な学び

大学間連携による学習内容の拡充

新たな価値観の発見、探求による知の深化・拡大を図る

学びのシミュレーション

Learning model

GOAL

『 グローカル(global+local)な視点から
付加価値の高い持続可能な農林水産業や
フードビジネスを支える人材 』

食を守る
スペシャリストになる
食品ロス削減・地域資源を活用
した食品開発、アレルギー向け
加工食品研究、食品の
衛生管理

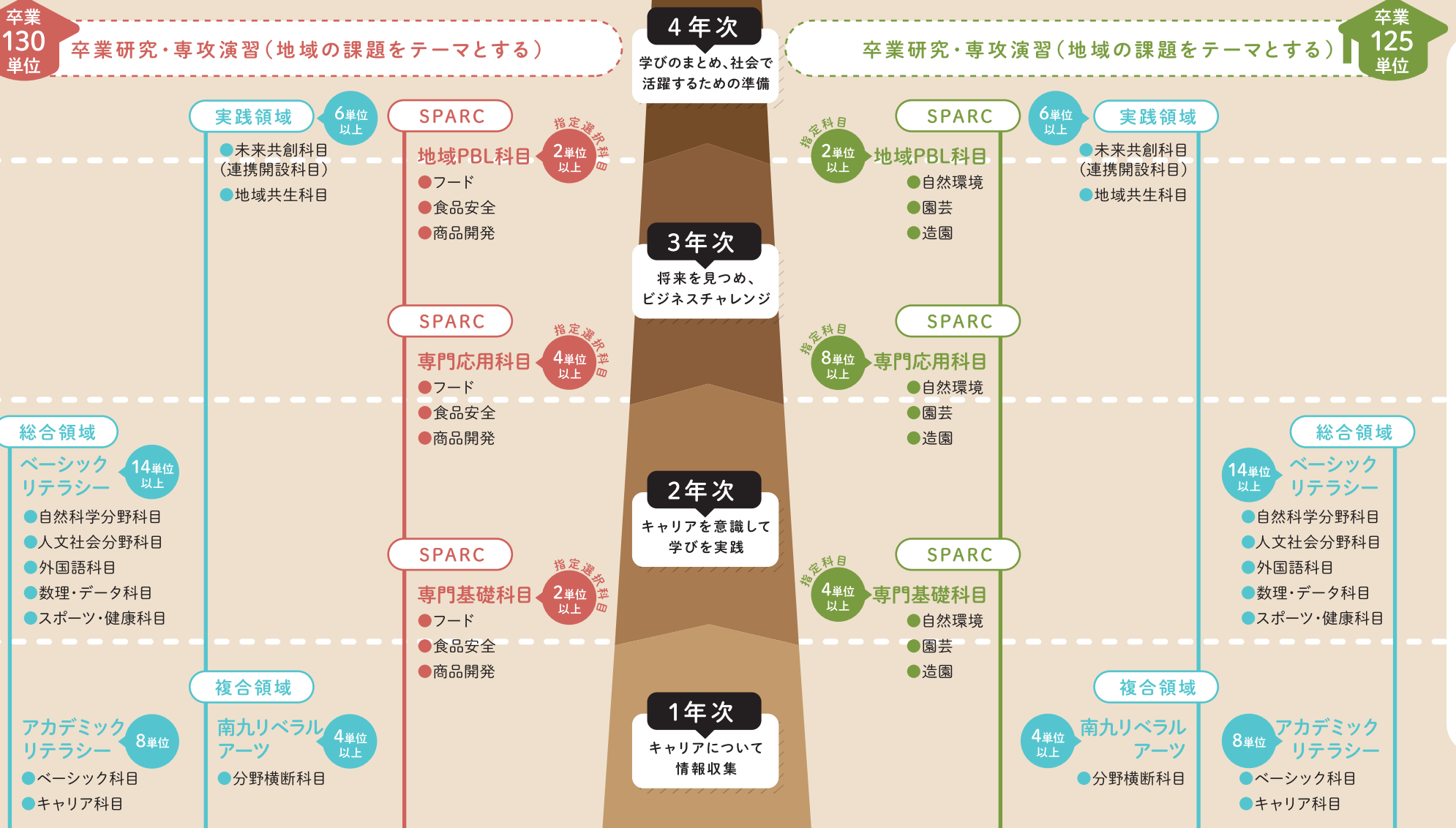
環境を大切にする
プロになる
スマート農業推進、伝統野菜育成、
地域野菜ブランド化、動植物の
保護、持続可能な
街づくり

食品開発科学科の場合

● 教養教育 ● 専門教育

環境園芸学科の場合

● 教養教育 ● 専門教育



基礎

- フード: 食品学Ⅰ(1前・2)/地域連携論(2前・2)
- 食品安全: 微生物学(1前・2)/環境保全型農業論(1後・2)
- 食品衛生学Ⅰ(2前・2)
- 商品開発: 食品開発科学概論(1前・2)/食品製造学(2前・2)

応用

- フード: 食品学Ⅱ(2前・2)/食品工場見学(2前・2)
- 食品安全: 食品衛生学Ⅱ(2前・2)/食品品質管理論(3前・2)
- HACCPシステム学(3前・2)
- 商品開発: 食品の官能評価・鑑別論(2前・2)/食品流通・消費論(2後・2)

基礎

- 自然環境: 昆虫学(2前・2)/樹木学(2前・2)/環境保全型農業論(2前・2)
- 園芸: 園芸学概論(1後・2)/環境保全型農業論(2前・2)/植物病理学(2前・2)/園芸生産環境実験実習Ⅰ(2前・2)
- 造園: 造園学概論(1後・2)/基礎製図演習Ⅰ(1後・2)/基礎製図演習Ⅱ(1後・2)

地域PBL

- 自然環境: 自然環境実習(2後・2)/環境緑地論実習(3後・2)
- 園芸: 農業経済学Ⅰ(3前・2)/総合防除論(3後・2)
- 造園: 都市緑地論(3前・2)/景観論(3前・2)

応用

- 共通: 学外研修(環境園芸)(2全・2)/地域特産ブランド開発論(2前・2)
- 自然環境: 環境緑地論(2前・2)/動物生態学(2前・2)/水辺環境論(2後・2)
- 園芸: 野菜園芸総論(2前・2)/作物栽培学(2前・2)/果樹園芸総論(2前・2)/花卉園芸総論(2前・2)
- 造園: 庭園学(2前・2)/園芸療法論(2後・2)/敷地計画論(2後・2)

地域PBL

- フード: 食品企業論(3前・2)/フードビジネス論(3前・2)
- 食品安全: 食品製造管理論(3前・2)/技術者倫理(3後・2)
- 商品開発: 食品開発キャンプ(1-3前後・2)/地域特産ブランド開発論(2前・2)/食品開発演習Ⅰ(2後・2)/食品開発演習Ⅱ(3前・2)/食品開発演習Ⅲ(3後・2)